

コード	504020101
記入日	H26.6.5

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	森 太
担当者	山下 義孝

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 26 年度
------	----------

評価対象事業名称	文化振興委託事業
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統、文化の保存・継承と文化活動支援	項コード	5
基本事業コード	50402	基本事業名称	文化活動支援	目コード	1
事務事業コード	5040201	事務事業名称	生涯学習各時期における学習機会の充実と精選事業費	細目コード	435
関連計画			法令・条例規則等		

計画 (PLAN)		※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。						
対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標						
(対象1) 町民		(対象指標1) 21,809人 (H25.4.1現在)						
(対象2)		(対象指標2)						
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)						
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****		・寄席・子ども劇場・コンサート・劇団四季公演・映画上映・青少年劇場を委託し開催した。 →事業実施数 6件 →開催日数 12日		*****	*****	*****	委託事業件数÷ 計画委託事業件数	*****
				① (達成率分析)	計画した事業を全て行うことができた。			
				② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)						
				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
				*****	*****	*****	参加者数÷ 目標参加者数	*****
				① (達成率分析)	文化事業委託として、寄席・子ども劇場・コンサート等を企画し委託ができた。今後もさらに住民が興味を持てる事業を開催していきたい。			
				② (達成率分析)				

実施 (DO)		※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。									
	単位	全体計画		24年度以前	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度以降	
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	32	32	26	6	6					
	②										
成果指標	① 人	15,025	16,703	12,120	3,000	4,583					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	29,391	29,311	22,988	6,403	6,323					
直接事業費 A	千円	23,091	23,011	17,388	5,703	5,623					
人件費 B	千円	6,300	6,300	5,600	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.9	0.9	0.8	0.1					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	1,128	977	826	302	151				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	28,263	28,334	22,162	6,101	6,172					

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥 当 生	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理 由	住民のニーズに応えながら、文化の推進を行う必要がある。
	有 効 性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理 由	多種多様な委託事業を行えるようになった。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ない	理 由	委託事業を増やすことにより住民の企画力等が向上し、住民参加型の文化活動が活性化し、本当に住民が望んでいる文化活動ができる。
	効 率 性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理 由	「島」ということで、本物（生）の芸術にふれあう機会が制約される中、さらに体験できる場の提供を続けていくことが一番重要である。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		代えられる ● 代えられない	理 由	「島」ということで費用コストが上がる。生の文化にふれあうためには、この方法が良い。	

改善 (ACTION)

1 次 評 価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	事業内容の見直しを図りながら続けることにより、住民の意識が高まり有効性を上げる事ができる。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2 次 評 価	芸術性の高い公演等を低廉な価格で鑑賞できる機会を広く町民へ提供する事業をベースに、多くの町民が参加して芸術に触れてもらうために、町民の意見とニーズを反映した事業を開催していくこと。
------------------	--

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業 の方向性	1次	2次	3次	このまま事業を継続	1次	2次	3次	類似事業と整理統合		
	●	●			事業内容を見直して事業を継続					事業の休止
					事業費を見直して事業を継続					事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。